

しずおかし しみず く えじり ひがし こうじょう じ とくがわのぶやすこう おかざきさぶろうのぶやす  
静岡市清水区江尻 東の江浄寺と徳川信康公（岡崎三郎信康）について

いえやす おだ のぶなが て むす のぶやす いえやす ちょうなん のぶなが わごう うち と  
家康は、織田信長と手を結びましたが、信康（家康の長男）は信長と和合（打ち解け

て仲よくすること）することは難しかったようです。その時、母の築山殿（瀬名姫）

と共に武田と内通しているという噂が流れ「不埒（道理に外れてけしからぬこと）

なのは信康なり」と、信長の怒りに火が付き、信長は家康に築山殿と信康を討つよ

うに命令を下したのです。家康は信康の無実を信じていましたが、やむを得ず決断を

しました。天正七年（1579）九月十五日のことです、信康に仕えていた榊原七郎右

衛門清政は、信康亡きあと上州館林に蟄居（家の中にひきこもること）していま

したが、慶長十一年（1606）家康に召されて、久能城の城主を命じられました。

その折に、信康の遺髪を譲り受け江尻の江浄寺へ納めました。



しみず く えじり ひがし こうじょう じ  
(清水区 江尻 東 江浄寺)



のぶやす いはつ まつ ごりん とう  
(信康の遺髪を祀る五輪塔)

いえやす ぼつご すんぷじょう ぼくふ るすばん じょう とくがわけ とくし さんだいしょうぐん とくがわ  
家康没後、駿府城が幕府の留守番城となっても、徳川家では特使を三代将軍、徳川

家光の代に、江浄寺の寺紋に「葵の御紋」の使用許可を認め、更に地域の寺院頭

としました。当時は、駿府城から上土（現葵区上土）まで輿に乗り、舟に乗り換え

て巴川を下り、仲町の裏手付近（現清水区銀座）で下船、江浄寺まで参詣したよう

です。巴川の畔から江浄寺まで続く小路は今も残っています。